



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

証券コード：3741

2008年3月期中間決算 説明資料

2007年11月14日

< 目次 >

- **事業概要**
- **中間決算概要**
- **通期業績見通し**
- **技術サービス別取組み状況**
 - リアルタイムソフトウェア(ワイヤレスBF)
 - リアルタイムソリューション
- **添付資料(事業戦略)**

事業概要

セックの技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス			リアルタイムソリューション
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッドソフトウェア	コアテクノロジーサービス	技術アプリケーション	
モバイルネットワーク		携帯電話端末搭載ソフトウェア 国際標準技術	基幹ネットワークシステム	RealtimePower シリーズ <i>air Look</i> <i>air Cube</i> <i>air SmartG</i> Karearea リアルタイム製品を核とするビジネス
ワイヤレス	携帯電話端末			
インターネット	車載端末 携帯情報端末	位置情報サービス技術 地上デジタル放送技術 ベクトル描画技術 XML	Webシステム	
社会基盤システム			位置情報サービス技術適用 交通(航空,ITS),放送 防衛,物流,医療	
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	オブジェクト指向 設計技術 ロボットソフトウェア 共通化技術	ロケット,人工衛星 天文関連システム	

中間決算概要

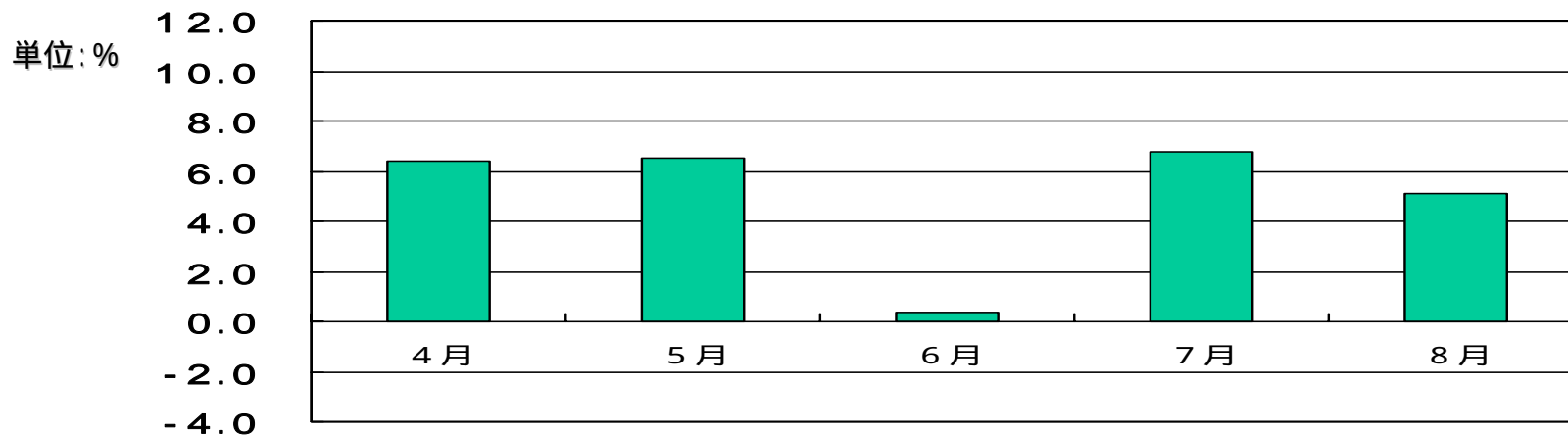
(2 0 0 8 年 3 月 期)

事業環境

2008年3月期中間の事業環境

売上高は07年4月より、5ヶ月連続で前年同期比増加となっており、IT需要は**全体的に堅調に推移**

情報サービス業売上高前年同月比推移 (経済産業省:特定サービス産業動態統計)



当社の事業環境では、ワイヤレスBFで外部環境が変化、事業領域全般では、値引き要請など、**QCD**の**改善要請**が依然として続いていた

Q:品質 **C**:価格 **D**:開発期間

2008年3月期中間の総括

中間総括

ワイヤレスBFの環境変化

4 - 6月期は好調であったが、販売奨励金の廃止による販売台数の減少に備えた各端末ベンダーの計画見直しや停滞が7 - 9月期に発生した

主体的ビジネスの核となるニューエレメントの品揃え充実と成果

位置情報サービスプラットフォーム (airLook) のドコモ版クライアント機能をリリース (8/8)
地上デジタル放送用組込みソフトウェア (airCube) のフルセグ版をリリース (10/11)
ベクトル描画技術の製品 (airSmartG) を使用したEZガイドマップでKDDIと協業 (5/22)
超高速インメモリXMLデータベース (Karearea) のLinux版をリリース (9/20)

プロジェクト管理の徹底による不採算案件の減少による利益面の改善

品質に重点をおいた製造間接部門のプロジェクト管理の支援

プロジェクトマネジメント教育、品質技術教育、早期発見・早期対処など

損益計算書

単位:百万円

	2008年3月期中間	2007年3月期中間	前年同期比(%)
売上高	1,300	1,335	97.4
売上原価	871	946	92.1
売上総利益	429	388	110.6
販売管理費	295	277	106.4
営業利益 (営業利益率)	133 (10.3%)	110 (8.3%)	121.0 (2.0ポイント増)
経常利益	150	121	124.1
中間純利益	91	51	177.5

- 売上原価** 受注量減少による外注費(109百万円、前期比 - 27%)の減少
- 販売管理費** ベクトル描画技術、ロボットなど研究開発費(34百万円、前期比 + 45%)が増加
- 営業外損益** NEDOからの補助金収入(7百万円、前期比 + 89%)による増加

貸借対照表

単位:百万円

	2007年9月末日	2007年3月末日	増減
流動資産(百万円)	2,555	2,677	122
固定資産(百万円)	1,354	1,293	60
流動負債(百万円)	378	468	90
固定負債(百万円)	112	108	3
純資産(百万円)	3,419	3,394	25
総資産(百万円)	3,909	3,970	61
自己資本比率	87.5%	85.5%	2.0%
流動比率	675.5%	571.6%	103.9%
固定比率	39.6%	38.1%	1.5%

流動資産 主に売掛金の減少

固定資産 主に製品開発によるソフトウェアなどの増加

流動負債 主に未払法人税の減少

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2008年3月期中間	2007年3月期中間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	263	76	340
投資活動によるキャッシュ・フロー	98	28	70
財務活動によるキャッシュ・フロー	66	48	17
現金及び同等物の増減額	98	153	252
現金及び同等物期末残高	1,793	1,479	314
参考)長期性預金	600	600	0
参考)現預金 + 長期性預金	2,393	2,079	314

営業キャッシュ・フロー 主に当期純利益の増加と売上債権の減少による収入増

投資キャッシュ・フロー 主に無形固定資産の取得による支出増

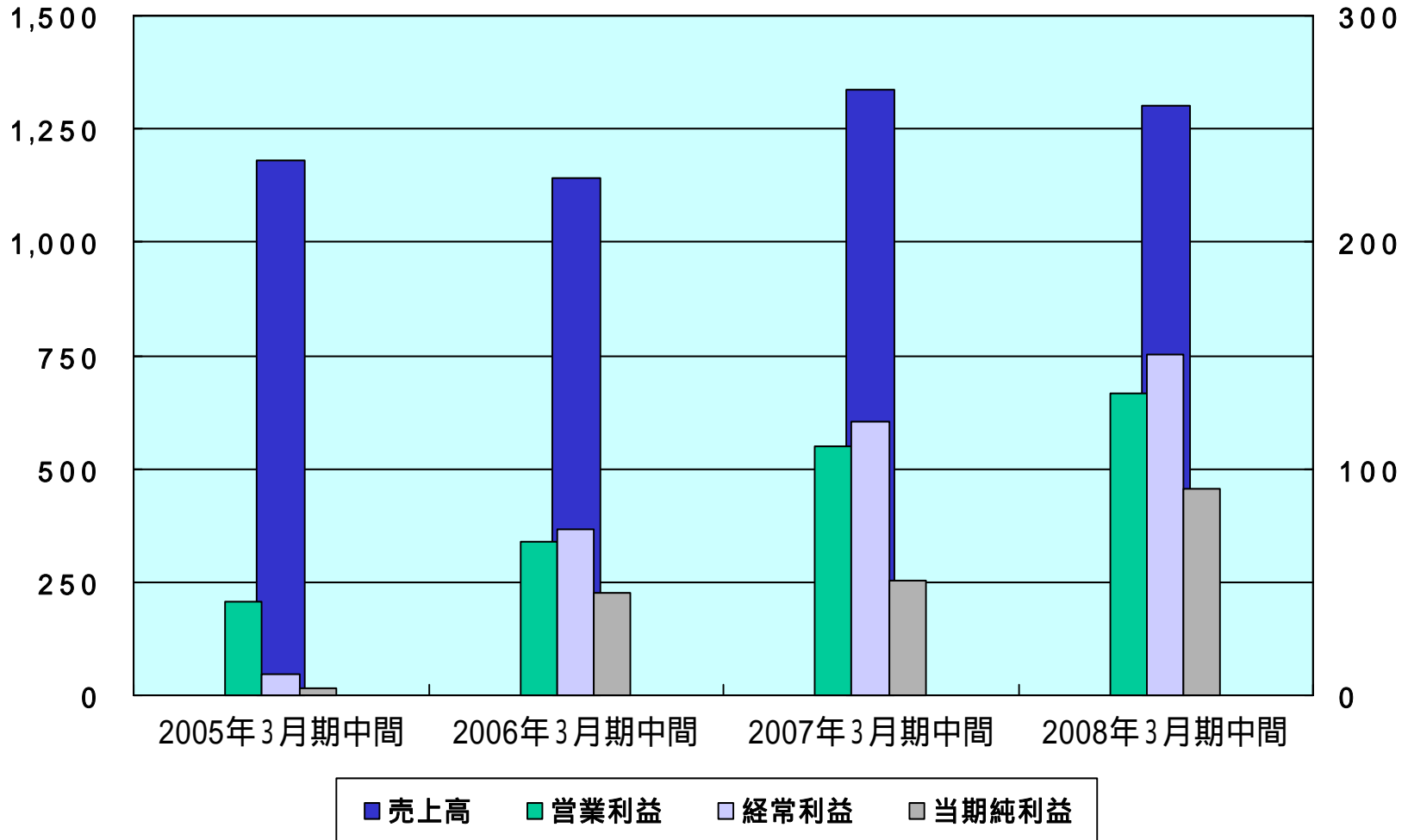
財務キャッシュ・フロー 主に配当金の増加による支出増

中間決算業績推移

売上高

利益

単位:百万円



B F 別の状況

ビジネスフィールド	2008年3月期中間		2007年3月期中間		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	101	7.8	118	8.9	85.8
ワイヤレス	676	52.0	747	56.0	90.6
インターネット	262	20.2	216	16.2	121.5
社会基盤システム	58	4.5	117	8.8	49.3
宇宙先端システム	173	13.4	125	9.4	139.0
ソリューション	27	2.1	10	0.7	274.1
合計	1,300	100.0	1,335	100.0	97.4

モバイルネットワーク
ワイヤレス
インターネット
社会基盤システム
宇宙先端システム
ソリューション

基幹ネットワーク技術アプリケーション案件減少
携帯電話端末の開発計画の停滞による案件の減少
商談は豊富、技術アプリケーションの増加
大型の技術アプリケーションの減少
衛星搭載エンベデッド開発案件を中心に回復
airLook,airCube,airSmartG,Kare area

売上高は減少、利益面は堅調だが減少
売上高は減少、利益面は堅調
売上高は増加、利益面は増加
売上高は大幅減少、利益面は改善
売上高は増加、利益面は増加
売上高は大幅増加

技術サービス別の状況

技術サービス	2008年3月期中間		2007年3月期中間		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
エンベデッドソフトウェア	744	57.3	801	60.0	93.0
コアテクノロジーサービス	124	9.6	141	10.6	88.2
技術アプリケーション	403	31.0	381	28.6	105.7
ソリューション	27	2.1	10	0.8	274.1
合計	1,300	100.0	1,335	100.0	97.4
コアテクノロジー合計 (エンベデッドと技術アプリも含む)	389	29.9	374	28.0	104.0

エンベデッドソフトウェアの構成比率が、ワイヤレスの減少により、減少
 コアテクノロジーが実用段階に入り、エンベデッドソフトウェアと技術アプリケーションに移行
 ソリューションの売上高、構成比が大幅に増加

中間期末（2007年9月末日）の状況

ビジネスフィールド	2008年3月期中間		2007年3月期中間		受注残高 前年同期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	
モバイルネットワーク	42	32	115	97	32.8
ワイヤレス	545	110	944	347	31.8
インターネット	281	109	281	153	71.6
社会基盤システム	88	48	86	21	222.3
宇宙先端システム	206	113	194	88	127.9
ソリューション	26	8	25	17	46.5
合計	1,192	421	1,647	726	58.1

ワイヤレスの受注残高が減少、10 - 12月期の受注実績がポイントになる。

通期業績見通し (2008年3月期)

2008年3月期重点テーマ / 変更なし

景況認識

- IT需要は、伸び率は大きくはないものの、全体としては拡大
- 当社事業環境は、ワイヤレスBFの需要が停滞した、それ以外のBFは予想どおり

重点テーマ - - - 成長重視で企業価値を高める

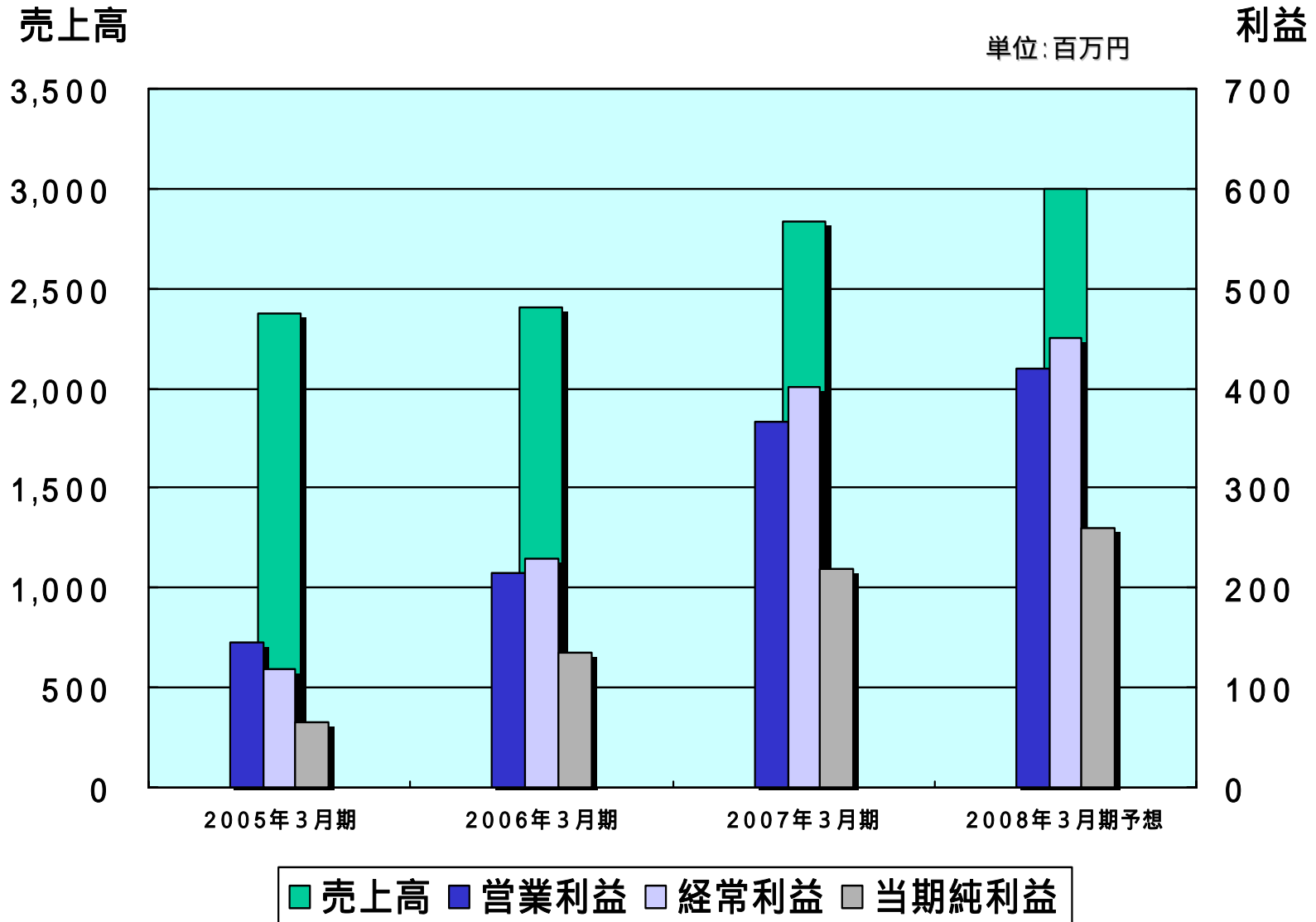
- 「ユビキタス」を中心テーマとする主体的なビジネスで、新たな成長に勢いをつけること
ソリューションビジネスで成果が出はじめており、前期を上回る成果をあげる
- 品質にこだわり、不採算プロジェクトを発生させないこと
今期は、新たな不採算プロジェクトは発生していない

2008年3月期業績見通し / 変更なし

単位:百万円

	2008年3月期 見通し	2007年3月期 実績	前年同期比 (%)
売上高	3,000	2,831	106.0
売上原価	2,020	1,961	103.0
売上総利益	990	869	113.9
販売管理費	570	501	113.8
営業利益 (営業利益率)	420 (14.0%)	367 (13.0%)	114.3 (1.0ポイント増)
経常利益	450	401	112.0
当期純利益	260	218	119.0

通期業績の推移



2008年3月期B F別業績見通し

モバイルネットワークB F

主力の移動体通信事業者向けコアテクノロジーサービスの要素技術開発は見込まれるが、基幹ネットワーク関連の技術アプリケーションは減少、全体としては**減少傾向** **変更なし**

ワイヤレスB F

携帯電話端末のエンベデッドソフトウェアビジネスは**拡大傾向**が7 - 9月期に**変化** **慎重に判断**

インターネットB F

地上デジタル放送技術,ベクトル描画技術での案件受注,技術アプリケーションの拡大により**拡大傾向**
変更なし

社会基盤システムB F

位置情報サービス技術関連の技術アプリケーションは拡大が見込まれるが、社会インフラ更新技術アプリケーション商談は慎重に受注判断を継続するため、全体としては**減少傾向** **変更なし**

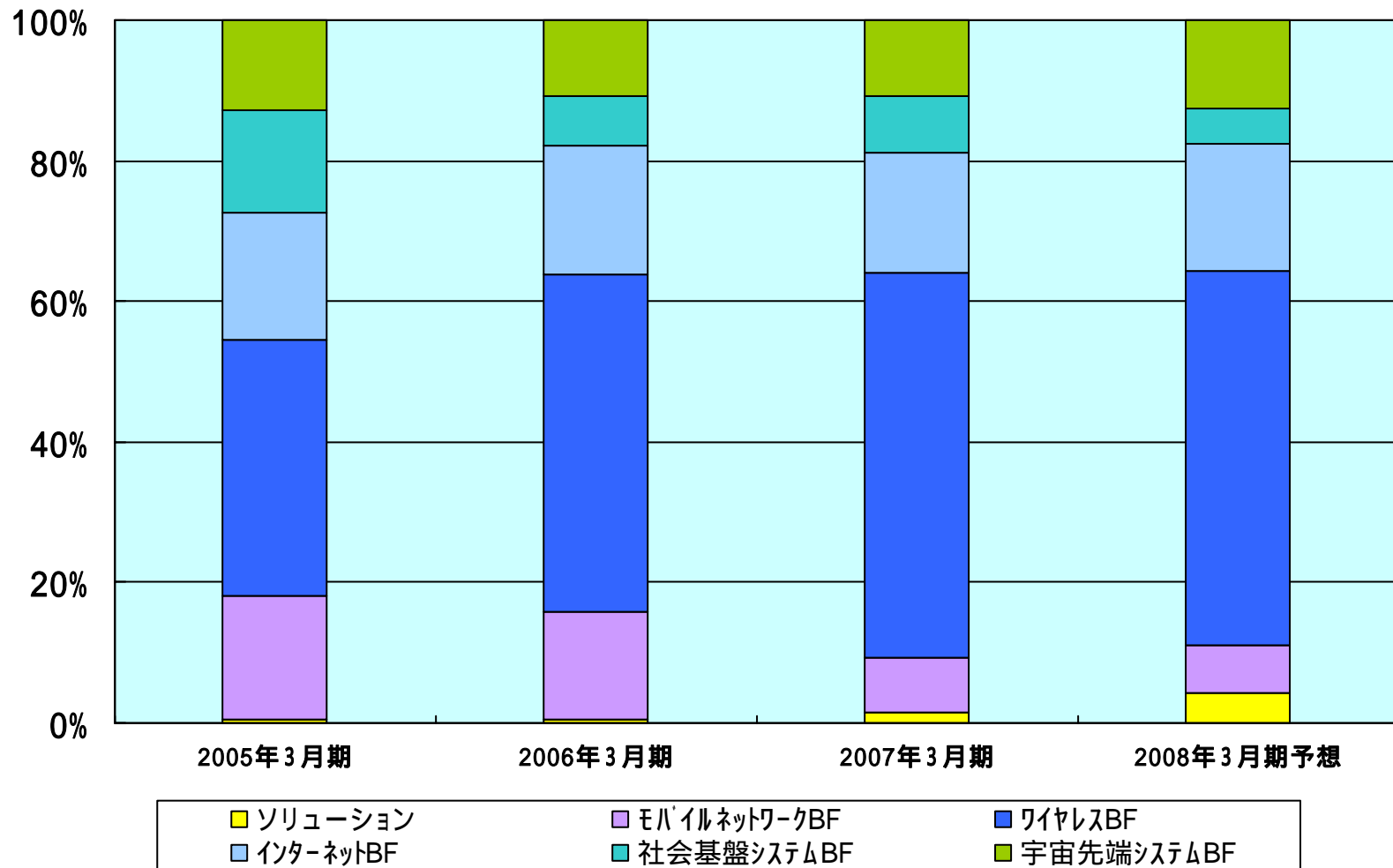
宇宙先端システムB F

商談が立ちあがってきて復調傾向にあり、受注状況は**拡大傾向** **変更なし**

ソリューション

位置情報サービス技術、地上デジタル放送技術にベクトル描画技術が加わり、**拡大傾向** **変更なし**

BF別売上高比率の推移見通し



技術サービス別取組み状況

ビジネスの取組み状況

■ リアルタイムソフトウェア

- ▶ 主力ワイヤレスBFで携帯電話端末のエンベデッドソフトウェアで需要が変化した可能性あり、慎重に判断する

■ リアルタイムソリューション

- ▶ 位置情報サービス
 - ▶ 製品適用SIとASP化を展開中
- ▶ 地上デジタル放送技術
 - ▶ 製品採用の実績が増え、営業活動を強化
- ▶ ベクトル描画技術
 - ▶ EZガイドマップサービス開始、次の展開を準備中
- ▶ 超高速インメモリデータベース
 - ▶ Linux版をリリース



主力BF - - ワイヤレスBF事業方針

売上高推移

	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期 中間決算	2008年3月期 (予)
売上高(百万円)	862	1,154	1,549	676	1,600
全社に占める割合(%)	36.4	48.0	54.7	52.0	53.3

今期のビジネス環境

4 - 6月期は好調であったが、携帯電話端末の高機能化が一巡したことや携帯電話端末の買い換えサイクルの長期化による販売台数の減少に備えた各端末ベンダーの計画見直しや停滞による影響が7 - 9月期に発生しており、下期も継続すると予想される

ビジネス拡大に向けた課題(リスク)

携帯端末ベンダー同士の提携や統廃合による開発計画の変動や停滞
販売台数減少による低価格化要請が強くなる

方針

このような事業環境を慎重に状況を把握しながら下記を推進する。

- ・携帯電話端末ベンダー向けにはワンストップ化によるコスト削減の提案
- ・エンベデッドソフトウェア開発技術の強みを活かした携帯電話端末以外のユビキタス機器(スマートフォン、情報携帯端末、情報家電など)への横展開
- ・技術アプリケーション(特にサーバ技術)と携帯電話端末を連携させたサービスのシステム開発

air Look は (2005年10月にリリース)

位置情報サービスを実現するプラットフォーム製品です。

位置情報サービス (LBS) = GIS (地理情報システム) + GPS (全地球測位システム)

特徴：オープン素材を活用、既存のGISと連携可能、通信コストを抑え小さなセンタシステム
クライアントが携帯電話の場合、DoCoMo、au、SoftBankの全てのキャリアに対応が可能

air Look 採用実績 (今期受注実績 6件) 安全、安心分野などに適用

- 運送動態管理システム (運送会社)
- 事故緊急通報システム (保険会社)
- 車両位置管理システム (ロードサービス会社) : 開発中
- 列車運行伝達システム (鉄道会社)
- 防災システム (国土交通省関東地方局荒川下流河川事務所が主催する防災訓練で使用)
- フリーライドバス (バス会社)
- 在日外国人向けバスロケーションシステム : 開発中
- 警備員ナビシステム (警備会社)
- 安否確認システム (製造業会社) : 開発中

air Look ビジネス (売上高 約31百万円、位置情報関連約24百万円)

- 製品適用技術アプリケーションの開発 (ライセンス+カスタマイズ)
製品ライセンス+システム開発 (システム開発の規模は、製品の2倍から20倍)
- アライアンスの推進
商談開拓は「独自の営業」とKDDI、地図会社 (ゼンリン・昭文社・アルプス社) との連携で推進中
- 製品を適用した位置情報サービスの提供 (ASP)
自動車教習所向け送迎バスロケーションシステム (2007年度中に本格展開予定)

air Look 今後の方針

国土交通白書によれば、国土・交通分野の情報化で、災害対応におけるIT活用の重要性が増加、これらと密接に関わる形で、GIS技術の普及・発展も進んでいるとしている。安全安心分野の市場は拡大すると予想

- 製品の機能拡張と製品適用技術アプリケーションの拡販
 - au、DoCoMoにSoftBankのGPS搭載携帯電話を加え、3キャリア対応を推進
 - 事故緊急システム、車両位置管理システムなどをシリーズ化し、横展開を図る
- ASP事業化研究から実用段階に移行する
 - 自動車教習所やスイミングスクールなど送迎バスサービス
 - 幼稚園バスで実証実験中

適用事例



安否確認機能付
災害情報管理システム

バスロケーションシステム



air Cube は

地上デジタルテレビ及びラジオ放送と通信を連携する技術です。

air Cube リリース 2006年3月

- Aプロファイル、Cプロファイル、P2プロファイル、ハイブリッド対応のBMLブラウザ
- デコーダ (DMUX, PSI/SI, DSM-CC等)

air Cube 搭載対象機器

- デスクトップパソコン向けハイビジョン放送チューナー
- ノートパソコン向けUSBタイプ/PCカードタイプのワンセグチューナー
- ノートパソコン向けUSBタイプ/PCカードタイプのデジタルラジオチューナー
- 携帯電話/デジタル家電
- Windows Mobile 搭載機器 (スマートフォン・カーナビ)
- PND (Personal Navigation Device) / PMP (Portable Media Player)
- 地上デジタルラジオ放送対応放送業務用受信機他

air Cube ビジネス (売上高約15百万円、地上デジタル放送関連で約150百万円)

- ライセンス&ロイヤリティ、カスタマイズ ビジネス
開発ライセンス (SDK : Software Development Kit) の販売
特定のAPI (Application Program Interface) やプラットフォーム、
プログラム におけるソフトウェア開発のためのツール集の販売
- コンサルティングビジネス、試験ツールビジネス
- 上記を包含した地上デジタルテレビ/ラジオアプリケーションの受託開発
- コンテンツ制作支援 (オーサリングツール、PCビューア等)

air Cube ビジネスの進捗状況 (搭載実績7件)

- 地上デジタルラジオ放送対応業務用標準機 (実績)
TBSラジオ&SKネットが共同開発した業務用標準受信機、PCカードに**採用**
- 地上デジタルTV受信機 (実績) Windows系に強み
バッファロー製「ちょいテレ」(高感度、デジタルラジオ対応版)に**採用**
SKネット製「MonsterTV」(デジタルラジオ対応版)に**採用**
デスクトップパソコン向けハイビジョン放送チューナーに**採用**
- 携帯電話
デコーダが**採用**
- 地上デジタル放送試験装置
地上デジタル放送用TS記録・再生装置に**採用**
フルセグ同録装置に**採用**

air Cube 今後の方針

- Windows系の実績と強みを活かし、以下の領域への展開を目指す
国内/海外携帯電話メーカーへの搭載
Windows Mobile 機器(スマートフォン・カーナビ)への搭載
PND(Personal Navigation Device)、PMP(Portable Media Player)への搭載
デジタル家電への搭載
- 地上デジタルラジオ分野(ITナビゲーション研究会)での研究開発を推進する

air SmartG は

SVG (Scalable Vector Graphics) データを忠実にレンダリングする技術です。

air SmartG リリース 2006年8月

KDDI とライセンス契約を締結、SVG 製品ファミリーとして**販売開始**

air SmartG 搭載対象機器

PC / 携帯電話 / 車載端末 / デジタル家電 / 街角案内表示板など

air SmartG ビジネス (売上高約16百万円、ベクトル描画技術関連約33百万円)

– レベニューシェアモデル

製品を活かした仕組みを提供し他社と連携して推進

– カスタマイズ、コンサルティングビジネス

SVG 技術を活かしたアプリケーションの受託開発、
コンテンツ制作及び各種コンテンツ変換サービスなど

– ライセンス&ロイヤリティビジネス

開発ライセンス (SDK : Software Development Kit) の販売

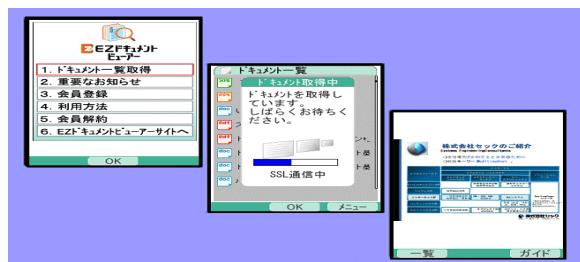
air SmartG ビジネスの進捗状況

- **ストリートボード**
東京電力：デジタル地図案内板に**採用**
- **地図ビューアー**
KDDIとEZガイドマップで協業、**地図ビューアーを提供**

air SmartG 今後の方針

- **J I P D E C の委託研究の成果をPC関連ビジネスを推進する**
長年培ってきたS V G技術を活かし、S V Gmapコンソーシアムなどで、S V G電子地図及びS V Gビューアの普及に向けて積極的にビジネスを展開する。今期はI E向けS V Gビューアのプラグインを提供し、新たなビジネスモデルを研究する
- **新しいビジネスモデルに挑戦する**

適用事例



KDDI : EZドキュメントビューアーに採用

ストリートボード実証実験に採用



Kareareaは、世界最高速レベルのXML検索性能を発揮するだけでなく、業界で初めてXMLによる高速多次元集計を実現した、全く新しいタイプのXMLデータベース製品です。Linuxバージョンをリリースし採用拡大を目指す

XML適用の広がり

- **企業間取引**
 - ▶ RosettaNet
 - ▶ cXML
 - ▶ Webサービス
- **財務情報**
 - ▶ XBRL
- **放送**
 - ▶ BML
- **新聞**
 - ▶ NewsML
- **地図情報**
 - ▶ G-XML
- **マルチメディア**
 - ▶ SMILE
 - ▶ SVG
 - ▶ MPEG-7
- **音声**
 - ▶ VoiceXML
- **バイオ**
 - ▶ BSML
- **化学**
 - ▶ CML
- **数式**
 - ▶ MathML
- **RFID**
 - ▶ PML
- **医療**
 - ▶ MML
- **放送・新聞**
 - ▶ BML
 - ▶ NewsML
- **観光**
 - ▶ TravelXML
- **電子出版**
 - ▶ JepaX



大量のXMLデータを高速に処理する必要性

Kareareaの特徴

- ▶ 数百万ノードからの検索、ソート、集計がミリ秒オーダー
- ▶ チューニング不要、インデックス不要
- ▶ XMLによる最大4次元までの高速多次元集計
- **高機能**
 - ▶ ユーザ定義関数による高度な検索・集計
 - ▶ RDB感覚のソート、多段階絞り込み検索、検索結果の結合
 - ▶ 付属GUIツールによる定型業務構築
 - ▶ RDB連携、データの一括ロード/セーブ
 - ▶ 分散データベース機能
 - ▶ 開発用Java API



Kareareaの主な適用実績

特許情報統計システム
衛星観測データリモートモニタシステム
製品原価計算システム
世論調査アンケート集計システム
衛星テレメトリデータ分析(論文発表)
官公庁向け変更・構成管理システム
博物館システム

太陽観測衛星統合データベースシステム
衛星観測データベースシステム
仮想天文台データベースシステム
製造業向け設計支援システム
電子番組表システム
商品企画データベースシステム
番組利用率集計システム

最後に

■ 社員数に制約されない事業成長を目指す

- 37年の実績のあるリアルタイムソフトウェアビジネスに、リアルタイムソリューションビジネスを加え、両輪でビジネスを拡大する。
- リアルタイムソフトウェアビジネスは、コアテクノロジーを核とする主体的なビジネスで高付加価値化を目指し、業績のベースを確保する。
(フロー型のビジネス)
- リアルタイムソリューションビジネスは、コアテクノロジーを製品化し、それを核とした様々なビジネスモデルにチャレンジし、業績を向上させる。
(ストック型のビジネス)

■ 配当の方針

- 每期原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して決定する。配当性向は、当面30%を目指す。

この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、見通し、戦略など、及び将来の業績に関する見通しが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“ Realtime@net ”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03 - 5458 - 7727

< 事業戦略 >

- 基本方針 / QCD & I
- 成長戦略 / 社員数に制約されない成長へ
- ビジネスモデル
- 研究開発・製品開発活動

基本方針

QCD&I をスローガンとするお客様中心ビジネスの推進

- - - **QCD** (品質・コスト・納期) を窮め、**I** (イノベーション) で飛躍

■ **QCD** 対応力の更なる強化

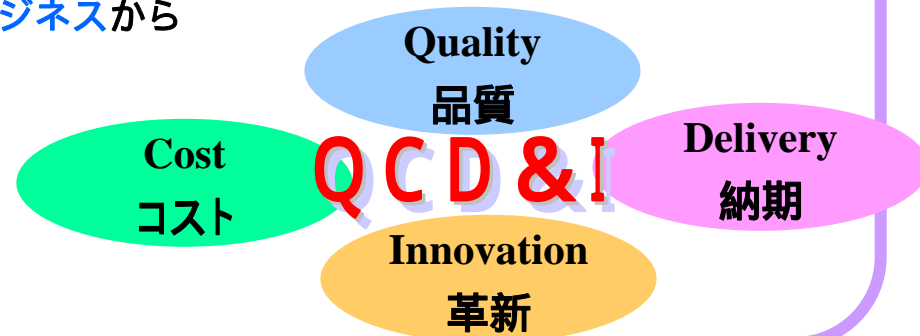
基本となるお客様満足度の獲得

■ **I** (イノベーション) により **IT** のメリットを提供

「**New Element to New System**」

- - 「**New Element**」による「**New System**」で不可能を可能に
それが最高のお客様満足度に、ビジネスの高付加価値化に繋がる

「**New Element**」を根っこに据えた**主体的ビジネス**から
ひいては**社員数に制約されない事業成長**へ



社員数に制約されない事業成長へ

「ニューエレメント」による主体的なビジネスで高付加価値化

研究開発・製品化活動で「ニューエレメント」の品揃え充実
コアテクノロジーサービスビジネス
製品適用リアルタイムソフトウェアビジネス

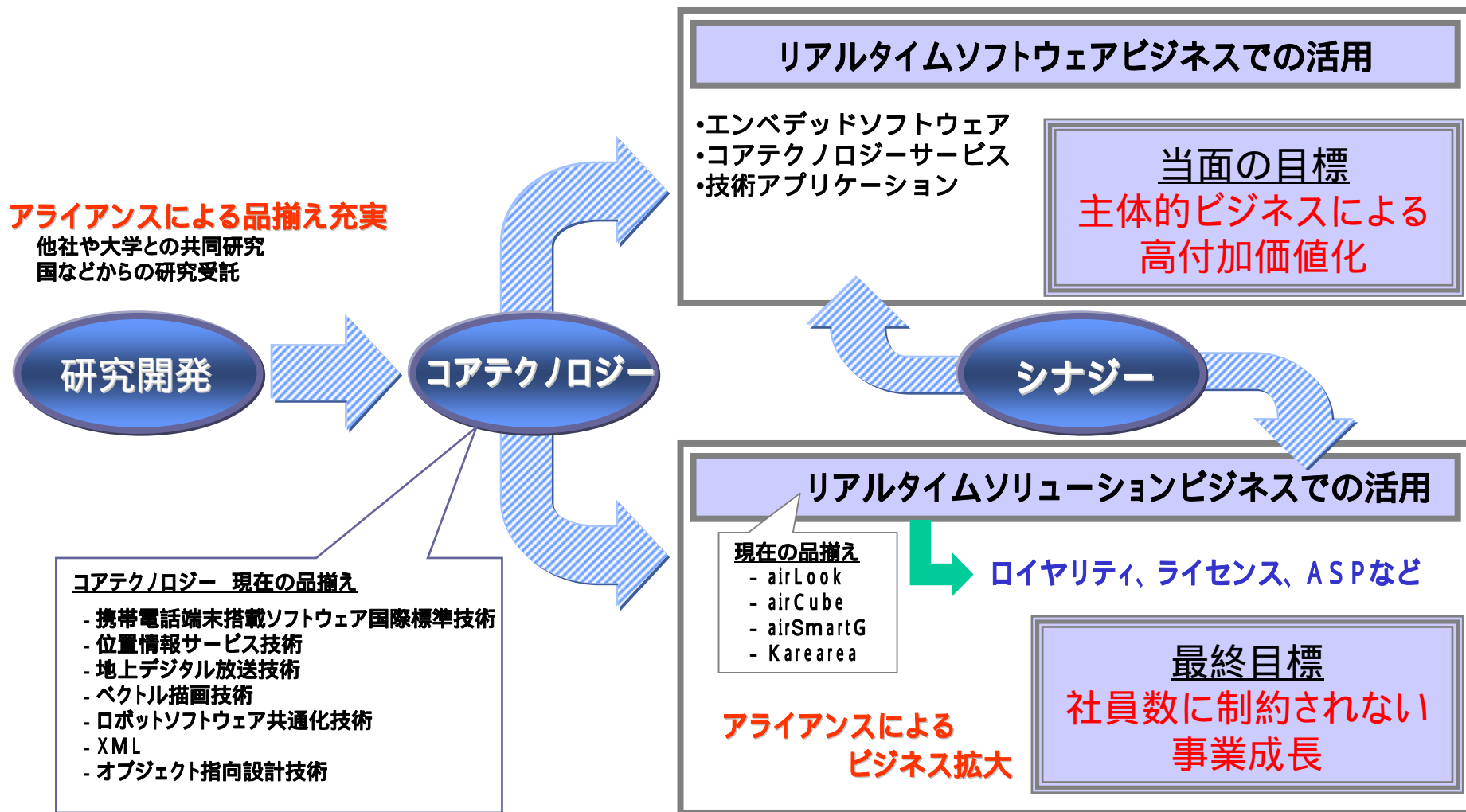
リアルタイムソリューション / 新たなビジネスモデルを追加

製品販売ビジネス
ライセンス、ロイヤリティビジネス
レベニューシェアモデルやASPなどサービス提供ビジネス

アライアンスを推進

ニューエレメントを充実するための他社や大学との共同研究
リアルタイムソリューションでの連携
営業面、技術面、製造面などでのwin-win連携

ビジネスモデル



研究開発・製品開発

ユビキタス (Ubiquitous)

携帯電話端末ソフト国際標準技術
位置情報サービス技術
地上デジタル放送技術
ベクトル描画技術
(JIPDECからの委託研究)

ロボット (Robot)

ロボットソフトウェア共通化に向けた活動及び研究
(日本ロボット工業会の派遣団の一員としてOMGに参加,各種論文発表)
ITRのビジネス化に向けた活動及び研究
NEDOからの委託研究

製品化・ビジネス適用

製品の強化とビジネス適用

位置情報サービス技術(airLook)
地上デジタル放送技術(airCube)
ベクトル描画技術(airSmartG)
ゼロ・レイテンシー(Karearea)